

ひとを育てる活動

CMIP 校の現況から

ナブル・カマガヤ校は児童数が 235 名に増えて、鎌が谷市の市民グループ ICECK は、今年も 10 月と 12 月のチャリティイベントの収益で、校舎増築を支援の予定です。私たち HANDS も、奨学金や給食費補助で支えています。



毎日急坂を登下校のナブルの子どもたちに、山腹斜面の学校農園の作業は遊びの延長。定員オーバーの狭い教室から解放されて元気いっぱいの 3 年生。

— 貧困家庭の子どもでない奨学生もいる 教育支援パートナー、CMIP の事情 —

特に貧しい家庭の子どもを対象としている CMIP を窓口とする奨学金事業。9 月に届いた現況報告に、父母の年収の合計が 13 万ペソ(月収 1.1 万ペソ)と 7 万ペソ(月収 5,800 ペソ)という奨学生がいることに気づきました。P1 で触れたレイクセブのチボリの里子とほぼ同じか、それ以上の収入です。一人はナブル小教師ゴンサロ先生の娘、もう一人は、神父に代わり毎日曜の祈りの会を主宰し、辺境での活動の際、馬やトラック調達役も担っているコルテスさんの子どもです。

現地に着いたため確認してみました。最辺境のナブル小に単身赴任のゴンサロ先生の場合は、妻もマグロー山腹のアトモロック小と、ともに山奥の教育に携わっていて、辺地手当的な意味合いで、また、コルテスさんは、宣教団である CMIP への協力者へお礼として、ともに、特別枠で奨学生に採用したとのことでした。

私たちの活動はすべて、現地パートナーとの協働事業です。同じゴールを目指しながら、その過程では、この奨学生採用特別枠のように、現地の事情を理解し、あるいは呑み込む必要があるようです。

ビラーンの卒業生の近況から

< 大学院を目指す会計士クリストファー >

ノビシエート寮の後輩たちが心配で、会社が終わると、寮を訪ねてよろず相談にのり、勉強を教えることもあるという社会人 2 年目のクリストファー。6 月に会った時には、「姪や甥の学費で手いっぱい、後輩の支援は小学生 2 人分だけ。仕事をしながら、週末に勉強を続けて大学院を出れば、地位も給与も上がって、支援を増やせる」と将来計画を話してくれました。その彼から、9 月下旬に近況報告が届きました。

「まだお金が貯まらないから 10 月入学は諦めた。来年 6 月にする」とありました。もちろん HANDS への支援要請はありません。自分への投資、大学院進学は、半年後までお預けとなったようです。



< バランガイ議員選挙に卒業生立候補! >

10 月 28 日に実施のバランガイ議員(村会議員)選挙に、卒業生のボニファシオとスヌーリアがそれぞれボルル村とボロルサロ村から出ることになりました。二人は、農業と経営学専攻で、今は、コーン、バナナ、バーベキュー竹串等の共同集荷、出荷の住民組織(BOSDA と KIPHISFA) のリーダーで、住民の期待を背負っての立候補です。カレッジ奨学生には、それぞれの専門分野を生かして、住民のために働いて欲しいと思いますが、議員としての貢献にも期待しています。

ビラーンの医師育成事業 - レアさんからジェニーへ -

医師に一番近いとエドウィン神父(前 CMIP ディレクター)の推薦を受けて平賀医師育成基金で、医大受験の準備をしていたレアさん、事前の統一試験の成績が基準に達せず、ダバオの医大の受験ができませんでした。子育てに加えてレアさんの年齢的なハンディを懸念したエドウィン神父が、代わりに推薦したのはジェニーです。出身のビラーンの村で、医師無し巡回診療を体験している本人も保護者も、現会計コース(2年)から、生物学科専攻への転科に同意しました。

一方、看護師としてのキャリア十分なレアさん、看護学校教師の職や村での研修講師役を続けています。